

令和3年度あいちラーニング推進事業研究報告書【重点校】

学校番号 16
 学校名 愛知県立 中村 高等学校
 校長氏名 小川 芳範

| | | | |
|---------------|--|----------------|----------|
| 研究責任者職・氏名 | 教頭・佐野好宏 | 事務担当者職・氏名 | 事務長・寺西有香 |
| 研究テーマ | ICT機器を活用した主体的・対話的で深い学びを推進するための取組の研究 | | |
| 本年度の研究目標 | (1) ICT機器の活用による「主体的・対話的で深い学び」の実現をとおして、授業改善を図り、スクール・ポリシーに示した「教育内容」を実現する。 (2) 新型コロナウイルス感染症の影響による自宅待機の生徒に対して、ICT機器を活用し、オンライン配信と使用教材を工夫することで、対面授業が実施できない状況でも学習を進めることを可能とする。 | | |
| 研究の実施内容 | | | |
| 実施月日 | 内 容 | 備 考 (対象生徒等) | |
| 令和3年 6月7日 | ○第1回あいちラーニング推進委員会の開催 ・国語・地歴公民科・数学科・理科・英語・家庭科・保健体育科の委員が10月21日(木)にロイロノートを用いた公開授業を開催し、授業後に研究協議会を開催することを確認した。 ・BYOD回線を利用するためには、「ICT設備(生徒用タブレット・BYOD回線)利用規定」が策定されていないため、校内規定の策定を早急にすることが課題であることを確認した。 | | |
| 7月16日 | ○熱田高校で開催された第1回連絡協議会に参加し、助言を受けた。 | | |
| 8月31日 | ○第2回あいちラーニング推進委員会の開催 ・ICT設備(生徒用タブレット・BYOD回線)利用規定について論議し、教員が生徒のスマホにパスワードを設定することと10月21日に校内公開授業を実施することを確認した。 | | |
| 9月6日 | ○ICT設備(生徒用タブレット・BYOD回線)利用規定を策定。 | | |
| 10月21日 | ○ロイロノートを用いた主体的・対話的で深い学びを推進する公開授業を行い、校内職員へ公開した。 ○研究協議 16時30分～ ・全教員による研究協議会を開催し、教員間で課題と成果を共有することにより、ICTを活用する授業の内容と方法を普及・還元した。 | | |
| 令和4年 1月27日 | ○あいちラーニング推進委員に対して事前に実施したアンケートに基づき、ロイロノートの便利機能について、職員研修会を実施した。 | | |
| 1月28日 | ○松蔭高校で開催された第2回連絡協議会に参加し、助言を受けた。 | | |
| 2月25日 | ○学校関係者評価委員会 ・あいちラーニング推進事業計画について報告し、評価を受けた。 | | |
| 3月下旬 | ○研究報告書をホームページで公開する。 | | |

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

1 研究成果の評価（計画書より）

（1）評価方法

学校関係者評価委員に対してあいちラーニング推進事業について報告し、評価を受ける。

（2）評価基準（到達目標）

ア あいちラーニング推進委員がロイロノートを用いた主体的・対話的で深い学びを推進する授業を公開授業として行い、その成果と課題を校内で共有することができたか。

イ 家庭と学校間でロイロノートを用いて課題の送信・提出ができたか。

2 研究成果の普及・還元

（1）公開授業

7名の教員が、ロイロノートを用いた主体的・対話的で深い学びを推進する授業を10月21日に校内で公開した。

野村貴大（国語）、川本理世（地歴公民）、松田杏美（数学）、宇野京佳（理科）、
稲山武史（保健体育）、水野純次（英語）、山口有里子（家庭科）

（2）研究協議会

公開授業日の授業後に研究協議会を開催し、教員間で成果と課題を共有した。

【成果】 コロナ禍でグループ学習に制限がある中、ロイロノートを活用し、意見を提出箱に提出させ、その意見をクラスで共有（他人の意見を見ることもできる）する授業を公開したことは、新たな授業の可能性を示すことができた。

また、提出箱は、期日や時間を区切って提出期限を設定することが可能であり、提出データも保存されるため、内容の確認により、学習に対する意欲や理解度を確認することができることも共有した。

【課題】 授業でロイロノートを本格的に使用することを大きな目標としたため、教員も生徒も不慣れな部分もあり、効果的な使い方については工夫の余地が残った。また、特別教室でもロイロノートが使用できるかを確認する必要性が指摘された。

（3）ロイロノートを用いた課題の送信・提出

家庭と学校間でロイロノートを用いて課題の送信・提出を行うことが一部の教科で実施されたが、まだまだ学校全体の取組には至っていないため、（4）で記載する「ロイロノートの便利機能についての研修会」を企画した。

（4）職員研修会（ロイロノートの便利機能について）の実施

事前にあいちラーニング推進委員を対象に実施したアンケートに基づき、ロイロノートの便利機能（提出箱を作成し課題提出させる）に特化した職員研修会を1月27日に実施した。自宅待機する生徒と学校との課題提出・回収を想定して、ロイロノートの機能を共有できたことは、大きな成果であった。

（5）学校関係者評価委員会でのあいちラーニング推進事業報告

2月25日に行われた学校関係者評価委員会にて、あいちラーニング推進事業における本年度の取組を報告し、「ICT機器の活用による『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指す公開授業を実施したことは評価する。学校全体の取組として継続して欲しい」と評価を受けた。

（6）研究成果の公開

研究成果として、令和3年度あいちラーニング推進事業研究報告書【重点校】を4月までに本校のホームページで公開する。